

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

☆自分らしさを大切に、互いに思いやり認め合いながら共に伸びていく子どもの育成
 『自分らしさを大切に』自己実現を図る力
 (知)自分で考え、自主的に活動し課題解決していく子を育てます。
 (徳)生命を大切に、自分のよいところを知り伸ばそうとする子を育てます。
 (体)自らの生命を見つめ、健康な心と体をつくろうとする子を育てます。
 『互いに思いやり認め合う』共感・協働的な人との関わりをつくる力(共感)
 (公)できることをすすんでやり、みんなの役に立とうとする子を育てます。
 (開)互いに認め合い、人や地域とよりよくなかかわろうとする子を育てます。

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

- 協力し、粘り強く問題解決する力(思考力・判断力・表現力)
- 言語能力
- 自己肯定感・自己有用感の醸成
- ☆ 多様性認める寛容性の醸成

具体化した資質・能力

『自分らしさを大切に』自己実現を図る力
 『互いに思いやり認め合う』共感・協働的な人との関わりをつくる力(共感)

中期取組目標

- 全教職員の創意と協力により、活気と魅力ある学校づくりを推進します。
- 児童が自分自身の大切さに気づき、自他の生命を尊重し、豊かな心を持つことができるよう指導します。
- 児童が、よく考え、主体的に学習する力を身につけるように指導します。
- 粘り強く課題解決をしていく力を育てます。
- あらゆる教育活動を通し、児童の好ましい人間関係を築きます。
- 保護者・地域の人々の思いや願いを積極的に学校教育に生かし、開かれた学校づくりを進めます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①傾聴を心がけたカウンセリングマインドを中心に据え、子ども一人一人が自分の課題を明確にもてる授業展開の工夫を通して、主体的に学ぶ意欲を育てます。②重点研究では、資質・能力を育むための授業改善を行います。③スキルタイムを含む授業時間の弾力的な運用を通して、個別最適で協働的な学びを実現します。
担当	学力向上アクションプランチーム

学力向上に関わる本校の状況

R3横浜市学力・学習状況調査(以下、学状)の結果がどの学年も、市の平均を下回っている。この結果は、R3年度特有のものではなく、例年平均を超えることはなく、学力向上の視点で言えば、停滞しているといえる。どの学年も、同じような傾向がみられることから、これは学級毎の授業力によるものではなく、学校全体の学習活動の在り方について、変革が必要であることを示している。
 R4年度以降の学状の分析については、個人の経年変化を追う形になることから、「全体としての学力向上」とともに「個々の学力向上」が求められている。
 本校における令和3年度の研究主題は、『自分の考えをもって、友達の意見を聞いたり、自分の意見を分かりやすく伝えたりする子ども』～みとって、活かし、子どもと子どもをつなぐ授業づくり～「伝え合う姿」を目指してであった。ここで示されている「伝え合い」は『②協働的な学び』の一つの姿であるということができ、授業実践の中でもみることができた。一方で、「自分の考えをもって」という部分は『①個別最適な学び』であるとはいいたい。なぜならば、本校の研究において「自分の考え」とは、授業という共通の場面の中で、与えられた課題に対する「自分の考え」のことであり、学習者が主体的にもつ課題に対する「自分の考え」ではないからである。学習が『①個別最適な学び』ではない以上、「友達の意見を聞く」ことや「自分の意見をわかりやすく伝える」ことの必要性を感じないまま学習が進み、子ども同士がつながりあおうとするのではなく、教師の「みとり」によって、教師の意図で「子どもと子どもをつなぐ」としてきたといえる。
 以上のことから、R3学状の結果を受けて、子どもの学力を上げることを考えたとき、まず、本校においては『①個別最適な学び』に焦点化する必要があると考える。研究一年目のR4年度は、子どもの学習に対する「目的意識」を育て、自ら学び進むためのスタートの部分を考えていこうと思う。

今年度の目標

「自らふりかえり、学び進む子どもの育成」
 ～子どもが目的意識をもって取り組む個別最適な学習活動の展開～

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ・「navima」の導入と「宿題」から「家庭学習」への移行
 保護者への情報発信
 ・重点研究(体育)による個別最適な授業の検証
 ・自分づくりパスポート(前期・スポーツフェスティバル)の取り組み
 ・個人面談でのロイロノート・navima・自分づくりパスポート等の活用
 ・メンターチーム授業研究
 ・スキルタイムの個別最適化(navima活用)

下半期
 ・前期の「navima」・「家庭学習」運用の反省・
 ・重点研究(体育)による個別最適な授業の検証
 ・自分づくりパスポート(後期・にじの音楽会)の取り組み
 ・個人面談でのロイロノート・navima・自分づくりパスポート等の活用
 ・メンターチーム授業研究
 ・スキルタイムの個別最適化(navima活用)
 ・横浜市学力学習状況調査の分析

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	①道徳の授業を充実させます。②「いいところみつけ」を各行事において継続的に実施し、計画的に掲示を行うことで、子どもたちが心を通わせている様子を明示的に積み重ねます。③YPアセスメントを活用し、社会的スキルを身につけることができるような教育課程を工夫します。④主体性を育み、自己肯定感を向上させるため異学年集団活動など体験活動を充実させます。
担当	豊かな心の育成推進プランチーム

豊かな心に関わる本校の状況

・運動会、音楽会において「いいところみつけ」のメッセージ交流を各学年で行い、他学年の良い所に目を向ける活動を積極的に行った。
 ・YPアセスメントや「いじめアンケート」の結果をもとに、支援を要する児童に対するアプローチの仕方をケース会議を設けて教職員で共有してきた。
 ・学校が楽しいと答える児童が多く、一定以上の児童が安心して学校に通っている一方、「楽しくない」と答える児童もおり、学習や友人関係などに何らかの不安を抱えている児童もいる。
 ・人権週間では、児童に必要と思われる人権課題にまつわるDVDを視聴し、クラスで気をつけることや大切にしたい言葉を「人権標語」として設定している。

今年度の目標

YPアセスメントを元にしたソーシャルスキルプログラムの積極的な活用

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	4月 仲良し活動の顔合わせ 5月 スポーツフェスティバル いいところみつけメッセージ 6月 国際平和スピーチコンテスト YPアセスメント調査実施(1回目)→学年研にて検討 9・10月 YPアセスメント調査に基づいたソーシャルスキルプログラムの授業実施
下半期	11月 音楽会 いいところみつけメッセージ 12月 人権週間の取組 YPアセスメント調査実施(2回目)→学年研にて検討 1・2月 YPアセスメント調査に基づいたソーシャルスキルプログラムの授業実施 3月 行動プランの振り返り

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①家庭との連携を図り児童が自分自身の健康について考えられるようにします。また、生活習慣の見直しとともに運動に親しむ資質を育てます。②一校一実践運動に「縄跳び」を取り上げ、長縄大会を通して体力の向上に励みます。③栄養教諭と連携しながら食育に関する授業を行います。
担当	健やかな体の育成プランチーム

健やかな体に関わる本校の状況

・休み時間には活発に外で遊ぶ児童が多いが、コロナ対応で隔日での外遊びとなるため、児童が体を動かす機会は減ってきている。
 ・「50m走」がほぼ全学年で横浜市の平均を下回る結果となっている。また「ソフトボール投げ」や「上体おこし」、「反復横跳び」「長座体前屈」でも下回る学年が目立つ。
 ・地域に「サッカー」「野球」「バスケットボール」などのチームが複数ある。参加している児童とそうでない児童の運動経験の差が大きい。また、公園が多いものの、遊んでいる姿が多くない。
 ・朝食の摂取率は低くはないが、複雑な家庭環境の児童も少なくはないため、児童間で差がある。また、幼少期の遊びの経験に差があるまま、入学してくる傾向が見られる。
 ・保健室の利用状況は、怪我の治療だけではなく、精神的な不安を除く場所として利用する児童もいる。

今年度の目標

家庭と連携を通した、基本的な生活習慣の確立を励行
 一校一実践運動を通した体力の向上

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	・毎月の保健指導 ・各種健康診断の実施と家庭との情報共有 ・学校保健委員会「病気、けが、ごみオール0(ゼロ)」の取り組み(R4年度は「ごみ0」重点) ・スポーツフェスティバルの実施 ・新体力テストの実施
下半期	・毎月の保健指導 ・学校保健委員会「病気、けが、ごみオール0(ゼロ)」の取り組み(R4年度は「ごみ0」重点)の検証 ・新体力テストの結果分析 ・給食週間の実施による、食への関心の向上 ・短縄・長縄の集会の実施